

大雨・台風の災害に備えを

洪水ハザードマップと一緒に 避難行動判定フローの確認を



7月から10月までは例年、大雨や台風による自然災害が多い月です。
6月号と一緒に配布した洪水ハザードマップと一緒に、以下の避難行動判定フローを確認し、万一の際に取るべき避難行動を把握しておきましょう。

問合せ先
総務課（内線 214）

洪水ハザードマップ※で、自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起る可能性はあります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、**原則として**、自宅の外への避難が必要です。

例外

自宅に留まり安全確保をすることも可能な場合
①洪水により家屋が倒壊・崩落するおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある
④十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる
※①～③は浸水の危険に際しての内容、④は土砂災害の危険に際しての内容

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

洪水ハザードマップ上に安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

いいえ

警戒レベル3が出たら、市が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう。

洪水ハザードマップ上に安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

いいえ

警戒レベル4が出たら、市が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう。